

1. 整備計画

計画の名称	地域再生計画 「産業活力の向上と伊東の海、魅力再発見」		
計画の期間	平成28年度 ~ 令和3年度	交付対象	静岡県、伊東市
計画の目標			

伊東港と富戸漁港の総合的な整備により、海上ネットワークの充実と利便性の向上を図り、海洋レジャーとともに観光資源としての海の魅力を高める。また、漁船の安全係留の確保や老朽化した施設の整備による漁業就労者の労働軽減を図り、水産物の安全で安定的な供給を実現する。

計画の成果目標(定量的指標)

観光交流客数の増加 1,086万人/年(H26) → 1,132万人/年(R3)

水揚げ量の維持 6,128トン(H26) → 6,128トン(R3)

定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値			備考
	当初現況値	中間目標値	最終目標値	
	(H26当初)	(H30末)	(R3末)	
① 伊東市沿岸観光交流客数の増加	1,086 万人	1,129 万人	1,131 万人	・前年増数の半数増
② 伊東魚市場水産物水揚げ量の維持	6,128 t/年	6,128 t/年	6,128 t/年	・基準年の維持
③				

全体事業費	合計(A+B+C)	894 百万円	A	864 百万円	B	30 百万円	C	効果促進事業費の割合 C / (A+B+C)	0%
事業種別	主な交付対象事業	要素となる事業名(事業箇所)		事業内容(延長・面積等)		市町名	全体事業費(百万円)	備考	
港整備推進交付金		伊東港(静岡県)		係留施設 L=39m、外郭施設 L=44m		伊東市	864	A	
事業数		富戸漁港(伊東市)		係留施設 L=55m、輸送施設 L=298m		伊東市	30	B	
	2								

2. 事業の進捗状況 (○:計画期間中に完成 △:計画期間終了後に完成見込 -:その他(備考欄に具体的に記入(中止、未実施等)) (計画期間中に他の整備計画に移行したもので、●:本計画の期間中に完成 ▲:本計画の期間終了後に完成見込)

計画の移行なし	○	2	△	-	備考	計画の移行あり	●	▲
---------	---	---	---	---	----	---------	---	---

3. 事業効果の発現状況、目標値の達成状況

I 定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況		【港湾】新型コロナウイルス感染症の流行前は、クルーズ船の寄港が増えるなど、静穏度向上のための防波堤整備が伊東市沿岸の観光交流客数の増加に寄与している。 【漁港】黒潮の大蛇行などの天然現象を受けて水揚げ量の維持が達成できていないが、沿岸資源増大事業(アワビの稚貝放流・ヒラメの幼魚放流・アオリイカの産卵礁の設置など)により、資源の増大を図っている。			
II 定量的指標の達成状況	指標①()	最終目標値	1,131万人	目標値と実績値に差が出た要因	・観光資源を活用した客船の誘致などにより中間実績値としては目標が達成されたが、その後の新型コロナウイルス感染症拡大の影響により大幅に減少に転じている。
		最終実績値	571万人		
	指標②()	最終目標値	6,128 t/年	目標値と実績値に差が出た要因	・水揚げ量の減少については、水産資源の減少及び天候不順による操業日数の減少、周辺海域の海況変化(近年の黒潮大蛇行など)が主要要因と考えられる。
		最終実績値	2,833 t/年		
	指標③()	最終目標値		目標値と実績値に差が出た要因	
		最終実績値			
III 定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況		【港湾】事業を実施中であるが、防波堤の延伸による港内静穏度の向上により、海洋レジャー基地としての魅力向上が見込まれる。 【漁港】本事業による施設整備は完了しているため、水産資源量や海況の好転により今後増加に転じる可能性があり、引き続き関係機関との協力を継続していく。			

4. 今後の方針等

本地域再生計画においては、円滑に整備が進み、計画年度内にすべての工事が完了していることから、今後は新型コロナウイルス感染症拡大による影響も小さくなっていき、観光・交流人口の増加等も見込まれる。また、水揚げ量についても水産資源量や海況の好転により今後増加に転じる可能性があり、引き続き整備された施設の管理等、関係機関との協力を継続していく。

(1) 事業の目的

【港湾整備課】

伊東港と富戸漁港を一体的に整備することにより、伊東市沿岸の観光交流と海上ネットワークの充実と利便性の向上を図り、観光資源としての海の魅力を高める。また、漁船の安全係留の確保や老朽化した施設の改良によって、漁業就労者の労働軽減と持続可能な漁業活動を確保し、水産物の安定的な供給を実現する。

(2) 指標①：伊東市沿岸観光交流客数の増加

港湾整備による指標として、観光交流客数の増加を設定した。

指標②：伊東魚市場水産物水揚量の維持

漁港整備による指標として、水揚量の維持を設定した。

指標の達成状況

- ①R3年度末の最終実績値は50.5%であり、目標値（104.0%）を達成していないが、新型コロナウイルスの影響の減少とともに今後の観光・交流人口の回復が見込まれる。
- ②R3年度末の最終実績値は46.2%であり、目標値（100.0%）に達していないが、周辺海域の海況変化（近年の黒潮大蛇行など）が主な要因と考えられる。

計画の成果目標	定量的指標			
	H26基準年	H30末中間目標	R3末最終目標	R3最終実績
①伊東市沿岸観光交流客数の増加	100.0% (1,086万人)	104.0% (1,129万人)	104.1% (1,131万人)	52.6% (571万人)
②伊東魚市場水産物水揚量の維持	100.0% (6,128 t/年)	100.0% (6,128 t/年)	100.0% (6,128 t/年)	46.2% (2,833 t/年)

(3) 指標に関連する実施事例

①伊東港 東防波堤（改良）



上部工嵩上・消波工設置

②富戸漁港 南物揚場（改良）



漁船潜込防止網の設置⇒作業効率の改善

飛鳥Ⅱ寄港



テンドー船

観光交流客数の増加に寄与

③伊東港 白石防波堤（延伸）



延伸部 ケーソン2函完成

海洋レジャー基地としての魅力向上

港内静穏度の向上

港内静穏度の向上

(4) 定量的指標以外の効果の発現状況

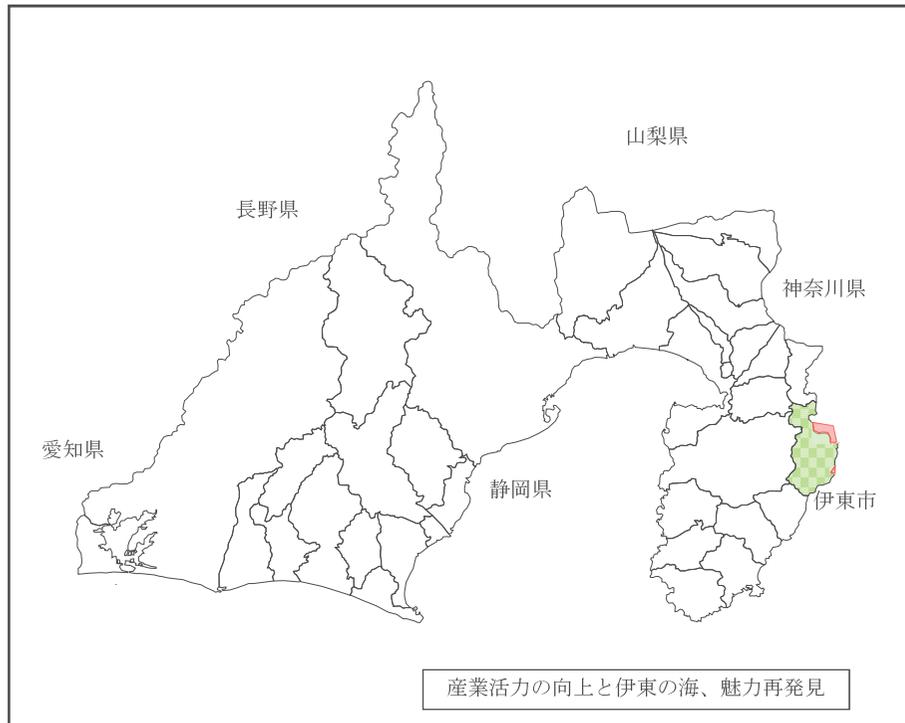
伊東港においては、防波堤延伸等による港内静穏度の向上により、海洋レジャー基地としての魅力向上が見込まれ、富戸漁港においては、老朽化した施設の改良により、漁業者の就労環境の改善が見込まれる。

(5) 今後の方針

伊東港については、防波堤の延伸により白石地区の静穏度を向上させ、コロナ禍後の観光需要の回復を追い風に更なる観光交流客数の増加を目指す。水揚げ量については、水産資源量や海況の好転により今後増加に転じる可能性があり、引き続き整備された施設の管理等、関係機関との協力を継続していく。

(1) 区域の図面

地図A 計画の区域に含まれる行政区画を表示した図面



地図B 縮尺、方位、目標となる地物及び地域再生計画の区域を表示した付近見取図

